

**1 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：
関係性中心の融合型人文社会科学の確立**

<http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/index.html>

領域略称名： グローバル関係学
 領域番号： 1801
 設定期間： 平成28年度～平成32年度
 領域代表者： 酒井 啓子
 所属機関： 千葉大学大学院社会科学研究院

本研究領域「グローバル関係学」は、現在、中東やアフリカ、アジアや南東欧等、世界各地の紛争、対立といったグローバルな危機が、20世紀的人文社会科学の枠組みでは十分に解明できないことを認識し、そうした危機が主体の本質によって生まれるのではなく、ミクロ（地域共同体）からマクロ（グローバルネットワーク）まで様々な関係性がレベルを超えて複雑に絡み合い生ずると考え、関係性を総合的に分析する分析枠組みの確立とそれに基づく事例分析を進めている。

本公募では、上記の趣旨を十分理解した上で、従来の研究枠組みを超えた新たな領域としての「グローバル関係学」に寄与、貢献すると考えられる研究を広く募集する。そのために以下の分野で公募を行う。

(1) 「グローバル関係学」の理論的、研究手法上の発展に寄与する研究。理論構築でも新たな分析手法の開拓でもよいが、個別事例の分析への適応可能性を示唆するものが望ましい。手掛かりとする研究分析手法については、文系、理系、定量・計量、エスノグラフィーなど、手法を問わない（C04）。

(2) 各計画研究（A01, 2, B01, 2, 3）それぞれの研究目的、内容を補完、強化しようとする研究。各計画研究の特徴をよく吟味し、十分理解した上で、それが目指す共同研究に自身の研究がいかに関与するか、その役割を明示した研究計画を求める。

なお、いずれの分野においても「グローバル」を見通す視点、「現代的危機」につながる要素が研究射程に入っていること、関係性を扱っていることが必須である。また、本研究領域では、計画研究を横断的に遂行、全体での討議を重ねる中での理論構築、認識の共有を重視する為、領域全体が実施する研究（国際会議報告や領域運営のオンラインペーパーへの寄稿）への参加、協力が強く求められる。また、これまで計画研究、公募研究で扱っていない地域（東アジア、南アジア、ロシアとその周辺）の事例を扱った研究の参加に期待する。

研究項目	応募上限額（単年度）	採択目安件数
A01 国家と制度	200万円	4件
A02 政治経済的地域統合		
B01 規範とアイデンティティ		
B02 越境的非国家ネットワーク		
B03 文明と広域ネットワーク		
C04 「グローバル関係学」の理論的、研究手法上の発展に寄与する研究	現地調査に相応の研究費を要する場合：300万円	4件
	上記以外：200万円	2件

（平成29年度公募研究 平均配分額 206万円 最高配分額 270万円）

**2 パレオアジア文化史学
—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究**

<http://paleoasia.jp>

領域略称名： パレオアジア
 領域番号： 1802
 設定期間： 平成28年度～平成32年度
 領域代表者： 西秋 良宏
 所属機関： 東京大学総合研究博物館

約20万年前頃のアフリカ大陸で誕生したホモ・サピエンス（新人）は、10～5万年前頃以降、ユーラシア各地へと拡散し、旧人など先住の諸集団と「交替」した。本研究領域は、絶滅人類が生息していた頃のアジア（略称パレオアジア）における「交替劇」を文化史的観点から解析し、その在り方の地理的変異や特質を実証的、理論的に論じる。注目するのは、アジアにおいては「交替劇」進展の速度や先住集団との接触、交流の程度などに多様な在り方があった可能性である。ヒトが交替したはずなのに石器文化が交替したようには見えない地域すら認められる。そうした多様な交替劇の実態を実地研究によって明らかにし、多様性が生じた背景を理論研究を通して説明したい。

公募研究は研究項目（詳細は領域ホームページ）ごとに募る。過去の証拠を扱う項目Aでは考古学、人類学などによる関連遺跡・人類化石の編年研究やその地理的変異を広域的に比較する研究（A01）、考古学、人類生態学、動植物考古学などの手法で新人の行動様式復元に寄与する研究（A02）、古気候学、古環境学、年代学など地球科学分野の手法によって新人のアジア拡散・定着期の環境に関する研究（A03）を募集する。一方、理論分野に関わる項目Bでは現生人類の行動観察の結果や文化人類学的理論を過去の解釈に活用する文化人類学、民族考古学等（B01）、ヒトの拡散と文化進化の多様な在り方を説明する数理モデル、集団遺伝学、進化生物学などの分野（B02）からの応募を想定している。

単年度当たりの応募上限額は原則200万とするが、考古学・環境科学系海外フィールドワークや理化学実験を伴う課題については300万を上限とする。

計画研究の内容を補充・拡張し、アジア新人文化形成プロセスの研究に貢献できる研究の応募を期待する。特に、若手研究者の応募を歓迎する。

研究項目	応募上限額（単年度）	採択目安件数
A01 アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築	300万円	4件
A02 ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明		
A03 アジアにおけるホモ・サピエンス定着期の気候変動と居住環境の解明		
B01 人類集団の拡散と定着ともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築	200万円	9件
B02 人類集団の拡散と定着ともなう文化・行動変化の現象数理学的モデル構築		

（平成29年度公募研究 平均配分額 185万円 最高配分額 200万円）